

みのり

3

2015 No.571

JA成田市

祝 JA成田市創立
50周年記念特集

写真で振り返る歴史②〔年金友の会〕



アムイル
KIDS

農協改革 骨格で合意

政府・自民党とJA全中は2月9日、通常国会に関連法案を提出する農協改革の骨格について合意し、公明党も大筋で了承しました。

自民党農林幹部が2月8日に全中の萬歳会長と最終調整し、2月9日に同党農協改革等法案検討プロジェクトチームの会合を開きました。会合において、准組合員の利用量規制の見送りや、監査法人への移行の際の配慮など、JAグループの要望が一部取り入れられたことを踏まえ、全中も同日、役員会を開いて受入を決定しました。

今回の改革の骨格では、「監査の選択制」「全中の一般社団法人」「准組合員規制の見送り」の3つが大きなポイントとなります。単位JAへの監査については、貯金量200億円以上のJAに公認会計士による会計監査を義務付け、JAはJA全中監査部門を分離して新設する監査法人と、一般の監査法人から選ぶ「選択制」に変更となります。全中は2019年3月までに一般社団法人に移行となりますが、政府・自民党は、農協法の付則で、JAグループの代表機能や総合調整機能を担うよう位置づける方針です。また、今回見送られた准組合員の利用量規制は、法律施行後5年間、正組合員と准組合員の利用実態や農協改革の実行状況を調査し、その後規制の在り方を慎重に決定する方針です。しかし、改革が農家の所得向上や農村社会にどのような影響を及ぼすかは依然不透明なままで、具体的な法案策定や国会審議の中での丁寧な説明が求められます。

萬歳会長は2月10日の談話で、「大きな一步を踏み出す重い決断をした」と、受入を決断したことを改めて表明しました。その上で「自己改革に組織の総力を挙げて取り組む」と、農業所得の向上や地域社会の活性化に向けて決意を示しました。また、「JAグループは経験したことのない組織の大転換を提起され、現場からは多くの不安の声が出された」とも指摘し、1月下旬からの与党の協議について「多くの国会議員に現場の思いをくんだ発言を頂いた」と謝意を示しました。

<政府・自民党の農協改革骨格のポイント>

JAの監査	<ul style="list-style-type: none"> 貯金量200億円以上のJAに公認会計士による会計監査を義務付け JAは、JA全中の監査部門を外出しし、公認会計士法に基づく監査法人を新設、 <ul style="list-style-type: none"> 新たな監査法人か一般の監査法人か選ぶ「選択制」に 会計監査と業務監査の両方が可能 円滑な設立やJAの負担を増やさないことなどを配慮 移行期間中に一部のJAが一般の監査を受け、問題がないか実証 業務監査はJAの任意
中央会制度	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県中央会……2019年3月までに「連合会」に移行 経営相談・監査、代表機能、総合調整機能を行う。 全中……2019年3月までに一般社団法人化 代表機能、総合調整機能などの役割を位置付け
准組合員の事業利用規制	<ul style="list-style-type: none"> 今回は導入を見送り、利用実態や農協改革の実行状況の調査を5年間行った上で是非を判断

緑化期以降は、晴天日、天候不順日の気温差がある為、「換気」と「保温」には十分な注意を払い、ハウス内の温度は温度計で**正確に管理しましょう**。特に曇雨天日が続いた後の晴天日の換気は、注意が必要です。午前中晴れていても、午後になって天候が崩れ、気温が下がる場合もあります。また、**灌水は天候に合った量を午前10時頃までに行い、午後の灌水は避けて下さい**。

また、新しく張り替えたビニールハウスは光の透過率が上がりますので、温度管理、換気には十分注意しましょう。



生育ステージ	温度	その他留意事項
播種～出芽揃い	30℃以下	過剰な被覆やハウスの換気不足による温度上昇に注意
緑化期	【昼間】 20℃～25℃ (25℃以上に上げない。温度が高くなったら換気。) 【夜間】 10℃～20℃ 寒い夜(10℃以下)は保温資材で覆う。	苗丈3cm程度で葉が緑化するまで、出芽苗を遮光材で被覆
硬化期 初期 (緑化期終了直後)	【昼間】 25℃以下 (日中、温度が高くなったら換気) 【夜間】 5～10℃ (夜間冷え込む時には被覆し保温)	苗がヤケてしまわないよう、 温度は30℃以下厳守で管理
硬化期 中期 ～ 後期の管理	苗を外気に慣らすよう、日中はハウスを開け換気に努める。 田植4～5日前は、夜間でもハウスを開け外気に慣らす。(低温時は注意する。)	灌水は、1日に1回たっぷり与える。 硬化後期には、乾きやすくなるので、乾き具合によっては、1日2回灌水。

苗八作!! 健康な苗づくりに努めましょう!!

●お問い合わせ 営農振興課 TEL. 0476-22-6717 営農指導員 石井勝祐まで



育苗管理について

育苗期にあたる3月から4月の気温は変動が大きいので、①浸種・催芽の管理、②用土消毒、③育苗期間の温度管理に気をつけて育苗管理を行いましょう。ここ数年は低温傾向で推移していますので、**温度管理には細心の注意を払いましょう。**

① 浸種・催芽の管理

適正な浸種水温、浸種期間及び催芽温度を守り、病気の発生を予防しましょう。

浸種水温	10℃～15℃
浸種期間	10℃の場合10日間、 15℃の場合7日間を目安。 ↓ 積算水温100℃を目安
催芽温度	30℃

種子消毒から浸種中の水温が10℃を下回ると、発芽率が低下しますので、低温での長時間の浸種は止めましょう。また、**浸種水温20℃以上は細菌性苗立枯病の発生を助長します**ので温度管理には細心の注意を払いましょう。

催芽（芽出し）はハト胸状態になるまで確実にを行います。

浸種開始3日間は、水交換は避け、その後1日1回水交換を行います。

② 用土消毒

播種時の覆土などには、フタバロンA粉剤を使用し、用土消毒を行いましょう。フタバロンA粉剤は、覆土20ℓ（約20kg）に対し、100gを混和します。

③ 育苗期間の温度管理

さて、昨年を振り返りますと、4月中の最低気温が平年より低く、出芽遅れやカビの発生がみられました。その一方で、日照時間は長かったため、閉め切ったハウスではムレ苗やヤケ症状、細菌性病害の発生も見られました。そこで、下記の点に気をつけながら、育苗期間の温度管理等に細心の注意を払い管理しましょう。

播種から出芽揃いの期間は、床土の温度が30℃より高くなると病原菌が増殖し、発病が助長されます。過剰な被覆やハウスの換気不足による温度上昇に注意しましょう。

